

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成26年 学校教育だより

December **12** 第323号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)



“疾走” ロードレース大会～今年も全力で完走～

写真提供／本郷中学校

「私の冬眠」

勝瀬中学校一年

中澤 友花

外でちらちら

白い雪

降ったりやんだり

繰り返し

外に 出られず

こたつが私を呼んでいる

みかんをむくむく

おもちがぶくぶく

わたしはごろごろ

冬眠が始まる

生徒が自分の考えや価値観を成長させるために

「社会は暗記。」「社会が苦手なのは、暗記が苦手だから。」こんな声をよく耳にします。確かに社会科は多くの用語を覚える必要があります。しかし、大切なことは、暗記する力を育てるのではなく、自分が興味、関心を持って、主体的に学ぶ力を育むことだと考えます。また、「わかる授業」とは、教師の働きかけが、生徒の学ぶ意欲に作用し、生徒が主体的に学ぶ状況をつくる授業だと考えています。
社会科は、事実について学ぶ科目でもあります。一方で、一つの出来事に対して、「どうしてこういう制度があるんだろう?」など、多面的・多角的に思考を巡らせ、自分の考えや価値観を成長させることができる科目でもあります。だからこそ、授業の中で、「なぜ」「どうして」という生徒自身の問いや疑問を生み出し、解答に至るまでの過程を大切にすることで社会科の目標の達成に繋がっていくのだと考えます。

学ぶ授業をつくる

富士見台中学校 教諭 佐瀬 孝太郎

言語活動を充実させた授業

私が意識して授業に取り入れているのは、「知る活動」「わかる活動」「表現する活動」の三つの「言語活動」です。「知る活動」とは、資料やグラフなどから必要な情報を集めて読み取る活動です。教科書、資料集、写真、動画、などの資料を駆使しています。地理の授業では、グーグルマップを使い地形の成り立ちや地域の特徴を捉え、生徒の興味・関心を高めることができました。次に「わかる活動」です。これは、学習課題に対して知識を得る活動です。ワークシ

わかる授業 = 中学校 社会 =

生徒が主体的に

施しています。毎回、一々二人ずつ新聞やインターネットなどから、気になるニュースを調べて発表しています。この実践には、スピーチを聞き現代社会を捉える「知る活動」、教師の解説により、知識として理解する「わかる活動」、自分で調べたことをわかりやすく伝える、スピーチを聞いて考えたこと、感じたことを述べる「表現する活動」、すべての要素が詰まっています。時にはディベートに発展し、熱い討論になります。日々移り変わる「生きた社会」を学ぶとともに生徒の思考力、表

一人一人の自立を願って

特別支援教育

針ヶ谷小学校 教諭 沼田 優子

開設四年目の「やよい学級」には、男子六人、女子一人の七人の元気な子どもたちがいます。

毎朝一時間目は体育。教師も一緒にマラソンで汗を流し、すっきりした気持ちで学習にむかいます。

今、重点的に取り組んでいることは「しっかりと自分の思いを自己表現できるように

なること」です。声を出すのが苦手な子には、書くことや身振りで必ず意思を伝えてもらいます。話の上手な子には、より分かりやすく相手の様子も見ながら話せるように指導しています。スピーチ、作文、音楽、絵など、様々な形で表現をするなかで、自分に自信がもてるようになってほしいと考えています。

特に大きな声で自己主張することが苦手な子たちにとっては、音楽会にむけて取り組んでいる和太鼓がとても効果をおこなっているように思います。おなかの底からふるえるような音を体いっぱい感じることで、子どもたちの中で、何かが変わっていくようです。「世の中そんなに甘くないぞ。」という言葉を含言葉に、周囲から配慮してもらいつつ、《自分から周りの人に理解してもらえようかな》と願っている人、毎日楽しく学習しています。

鶴瀬小学校 5年 渡邊 美桜



学校で笑顔になるために、大切なのは、友達と仲良く、私も友達もやりたいことが、あることだと思う。冬になって持久走大会があった。3位以内に入ることを目標に、朝もがんばった。結果は4位だった。目標には届かなかったけど、毎年記録が伸びていることが、うれしい。来年の冬

私の冬の物語

も、ちょう戦したい。もうすぐ2学期が終わる。クラスでは、学級会をやって、クリスマス会をひらこうとしている。男子女子が関わって楽しいものになるといいと思う。このクラスは、団結力がある。冬の朝のにおいをかぐと、いい気分になる。みんなも笑顔になってほしい。明日もいい笑顔で学校に来たい。



何と言っても、授業の主役は生徒です。時には、生き生きとしたコミュニケーションを楽しむ授業の中で、生徒から疑問が生まれ、新たな授業の展開に発展していくことも



一分間スピーチの実践

本校の社会科部会では、授業で「一分間スピーチ」を実

を整理させるなど、同じ言葉でも違う形で繰り返すことで定着させるようにしています。また、前回学んだ内容を一問一答の発問形式で復習したり、ペアで交互に用語説明を行ったり、様々な方法で復習できるようにしています。



生徒とともに学ぶ

「失礼なことだけれど、もし戦争がなかったら、原爆の恐ろしさ、戦争がいけないことだと理解できなかったかもしれない。理解できたからこそ、今を大切に生き、絶対にこのような悲劇を繰り返さないようにしたい」と思った。「戦争の授業を終えての生徒の感想です。社会科の授業を通して教師が何を教えていくべきか、教えることができる主張でした。このように生徒たちの主張から、私

指導・講評 富士見台中学校校長 児玉亮一

自身も、様々な考えや価値観に出会い、日々成長させられているように感じます。今年度は、人権作文や長期休業の自主課題の裁判所見学など、多くの生徒が自分の意思で取り組んでいました。また、休み時間に、その日のニュースの話題を話しにくる生徒もいます。生徒たちのそうした主体性をとてもうれしく思うとともに、これからも社会の授業を通して、様々な考えや価値観に触れ、学び合いを深めていきたいと思っています。

本校での学びの成立への軸は、教師主導の教え込み型授業から、生徒主体の学びを支援していく生徒活躍型授業への転換である。それは、教師がどのような活動をするのかよりも、生徒がどれだけの学習活動を行い、どれだけ習得したかを重要視し、常に、生徒が主役であり、教師は脇役という考え方である。
本校社会科部会では、授業改善のために様々な「仕掛け」や「仕込み」を考え、学ぶ側の理論で指導法を発想している。

開校40周年式典に関わって

諏訪小学校保護者 加治 浩史

私には息子が二人います。先日、学校の創立四十周年式典及び記念事業が開催され、実行委員として子どもたちが「思い出」に残るようなことを行いたいと、他の実行委員の方々と計画を進めていきました。



当日は、警察音楽隊の生演奏を聴いたり校庭で子どもたちのメッセージを付けたバルーンを飛ばしたりと、子どもたちにも喜んでもらい、とても思い出に残る記念事業でした。

二人の息子にも、学校から帰ってきてから感想を聞いたところ、とても喜んでいて、

「演奏聴きながら踊っちゃった。」とか「バルーンが見えなくなるまで友達と一緒に追っかけた。」など楽しそうに話していました。

私も息子と同じ諏訪小学校出身で創立十周年の時に在籍していました。

三十年前のことですが、未だに当時の楽しかった思い出が記憶に残っています。

「思い出」に残ることは色々ありますが、どれも大切なことだと思います。皆さんの「思い出」が残せるように、これからも楽しく全力で日々の生活を送って行ってほしいです。



よきこいこ

つるせ台小学校

つるせ台小学校では、三年前から地域のよきこい祭りに参加しています。地域の勇舞会の方々にご指導いただき、今年も四年生が代表として踊ってきました。

よきこいは、三、四年生が運動会に向けて取り組んでいます。初めて鳴子を持つ三年生は、戸惑い気味。昨年経験のある四年生が、三年生をひ

地域の皆さま、これからもよろしくお願いいたします。



導の先生の力強い動きに近づこうと一生懸命踊りに取り組む、運動会は、青空の下、きれいにそろった鳴子の音を響きわたらせることができました。その後、地域の体育祭でも踊りました。

つるせよきこい祭りでは、多くのチームが参加の中、最高の踊りができました。練習を通して仲間との絆、本気で取り組むことの素晴らしさと、



一人ひとりが輝く学校を目指して

水谷東小学校

水谷東小学校では、本年度より、「互いのよさを認め合い、望ましい人間関係を築く児童の育成」を目指し、話し合い活動の充実を図っています。

①自主的、実践的な話し合い活動にするために、計画委員会等の事前の指導を図り、環境を整える。

②折り合いをつけた話し合い活動にするために、お互いに認め合う場を工夫する。

③集団活動に主体的に関わ

る児童を育てるために、事前の話し合い・事後の活動における支援を明らかにし、適切に評価する。

以上の三つに重点を置き、研究を進めています。

授業研究部と環境調査統計部からなる研究部と授業研究会の二本柱で、低・中・高のそれぞれのブロックがめざす児童像に迫っています。学級活動を通して、望ましい人間関係を構築し、子どもたち一



人一人が生き生きと輝ける学校をめざし、今日も研鑽を積んでいます。

地域の皆さんに助けられて……

富士見特別支援学校保護者 棚内 正子

我が家の息子は自閉症があり、富士見市立富士見特別支援学校に通っています。健康の子供より多くの時間はかかりますが、少しずつ成長していると実感しています。

はじめは、私自身息子の自閉症を受け入れる事が出来ず悩んだ事もありました。子どもの障害はこの子の個性なんだと思うようにしてからは少し気持ちも軽くなりました。息子が、

これから先、生きていく上で家族だけでなく、いろいろな方々と接することもあるので、子どもには多くの事を体験してほしいと思っています。

最近、近所のコンビニにおつかいに行ったり、弟と二人で床屋に行くなど行動範囲が広がってきています。家族だけでなく地域の方々が、息子の事を理解し、受け入れてくれているので、私も安心し

教育課題特集 はぐくむ ~学校・家庭・地域から~

絵本はだれのもの

大型絵本製作の会 砂川 聡子

秋の読書週間、水谷小学校PTA大型絵本製作の会では、小学校や幼稚園より依頼を受け、今年も十二回、出張読み聞かせに行ってきました。

大型絵本を初めて見る子ども、久しぶりの子ども、その時の年齢や絵本によって、色々な表情を見せてくれます。私は舞台上で一喜一憂しながらも、子どもたちに会えることを、毎回嬉しく思っています。

経験が増えていく日々を過ごせ、感謝の気持ちで一杯です。読み聞かせで自分の声を聞くのは、何度やっても慣れませんが、子どもたちに会えば、そんなことはすっかり忘れ、私の方が励まされ、次につながるパワーをもらっています。いつも上手には読めませんがひとつ、気をつけていることがあります。それは姿勢です。絵本のように背筋を伸ばし、遠くの子にも声が届くように。本との素敵な出会いで、子どもの笑顔が増えますように。



さて、この会に所属して、私には様々な出会いと貴重な

人間尊重教育推進

わたしたちのまちに育てよう人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

「呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。」

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとり子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますのでご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

富士見市 いじめのない学校づくり子ども宣言

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことはしてはいけません。」と注意します。
- 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願います。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」と叫ぶことを続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、良くなかったら注意をしてください。」とお願います。
- 私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

家庭における人間尊重教育十か条

- 一人のいのちを大切にしよう
- 健康を大切にしよう
- おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- ありがとう、ごろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう
- 家族の仕事を手伝おう
- 家族の一員としての役割をはたしましょう
- 人の喜びを喜びとし、人の心の痛みを分かちあい助けあうことを心掛けよう
- やさしさ、いたわりの心を大切にしよう
- おとしよりの方々に学びましょう
- どんな物も人の汗と力でできることを知り、物を大切にする心を育てましょう
- 正しくやさしいことばでつづかれた明るい家庭をつくりましょう
- 正しいことをつらぬく強い心で、勇気ある行動をとります

人間尊重 わたしたちの合言葉

- 「このくらい」 軽気持ちで傷つけない
- あなたのね 笑顔が仲間 救うんだ
- 思いやり みんながもてば やさしい社会
- 「ありがとう」 そのひと言が 宝物
- 思いやり 笑顔いっぱい ふやそうよ
- やさしさに 心開いて 「ありがとう」
- 大丈夫 君のそばには ほぐがある

人間都市同和対策協議会
人間地区人権教育推進協議会
富士見市人権教育推進協議会
応募作品より

人間尊重・私の主張

人権問題について

少しの一步を踏み出すために…



西中学校 二年
湯宮 未詩

私はいままで「いじめ」というのは、やる側、やられてしまう側の問題であり、自分にはまったく関係のないものだと思っていました。このように思っている人は多くいるかもしれません。しかし、いじめられている人の心の叫びを求めている助けを見つけてあげられるのは誰なのでしょう。もちろん、親や学校の教師のやる事でもあるかもしれませんが、ですが私は、いじめというのは親や教師が気づくような堂々としたものではないと思います。だから、いじめをとめられるのはいじめを見た人、感じとった人がやるべき事なのです。いままで生きてきてとても大きないじめを見た、という経験はありません。ですが、学校のクラスの中でおこるちよつとした「仲間はずれ」や「菌ごっこ」などといういやがらせを見てしまった事が私にはあります。この時やられてしまった人はとても心を傷つけたかもしれません。その人の気持ちは全てを知る事はできないかもしれないけれど嫌じゃない、という人はいないでしょう。でも私は、

「やめようよ。」
というこの一言をまわりの人に言う事ができませんでした。ただ、見て見ぬふりをしてしまったのです。なぜ、止めることができなかったのかと思う人はいると思います。今の私もこの時の自分を責めることしかできません。しかし、なぜ言えなかったのか。それはたった一つの理由です。
「そのいやがらせが自分にまわってくるのがこわかったから。」
このように思う私はとても弱い人間です。ですが同じように考える人はいるのではないのでしょうか。いじめやいやがらせをとめてしまおうと『空気が読めない』という意味のわからない言葉をかけている人もいるのではないのでしょうか。私はいじめやいやがらせで怖いものに『空気』があると思います。でも、その空気を読んでしまおうといじめやいやがらせをやっている側、やられている側の問題です。なくなり、集団のいじめ・いやがらせに変わるので。それは、いやがらせを止める事ができなかった私も入ります。私もいやがらせをやった一人なのです。

「やめようよ。」
の一言です。ですがこれでいじめがおさまるかは私もわかりません。でも、いじめられてしまう人にとつてその言葉はどれだけの心の支えになるのでしょうか。前の自分はこんな事をしたら自分がいじめられると思っていまして、いじめという最低な事をやる人になるよりよっぽどいい事だとは思いませんか。いじめをやるような人と同じになりたいとは思いませんか。私は何があってもそうなりたくはないと思います。今の私なら、いじめをとめられる言葉を言うことができると思います。
いじめというのは何かをすれば絶対になくなるということはありません。なので、私達の身近にある恐ろしいものなのです。ですが、完ペキになくならないとしてもいじめがおこってしまう前に少しでもやめさせる事が私達にはできます。そして、いじめられて傷ついている人を救う事だってできます。自分の行動で人の力になれるというのはいじめ事だとは思いません。もし、今いじめを目の前にしてただ見まもることしかできないというような人がいるのならば、たったの一言でいいのです。ちよつとの勇気に変えられることがあります。一人一人が少しの一步をふみだす事で大きな力となり、いじめなどという最低なものをとめる事ができる。私はそう思います。

にできる事は、

教育委員会だより

◆ 富士見市高等学校等 入学準備金利子補給のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学へ入学する者の保護者で、日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けた方に対し、市がその返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

◇ 利子補給対象者

- (1) 市内在住の方
- (2) 市税(市県民税、固定資産税、軽自動車税)を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けている方

◇ 利子補給額

対象額は、融資額の内70万円以内の額を限度とします。利子補給額は、融資を受けた利率で、元利均等月賦償還、据置期間なしとして計算します。

◇ 利子補給期間

教育一般貸付の融資を受けた日の属する月の翌月から5年を限度とします。

◇ 申請手続き及び問合せ

教育委員会教育政策課まで(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線611、612)

※教育一般貸付の融資に関する問合せは、日本政策金融公庫へ

- ・ 日本政策金融公庫 川越支店
〒350-1123
川越市脇田本町14番1 日本生命ビル5階
電話 049-246-4171(申込み相談)
- ・ 国の教育ローンコールセンター
電話 0570-008656(ナビダイヤル)

平成26年度埼玉県小中学校児童生徒美術展

富士見市内展のご案内

☆日	時	1月23日(金)	9:00~17:00
		24日(土)	9:00~17:00
		25日(日)	9:00~17:00
		26日(月)	9:00~15:00
☆会	場	富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ	

富士見市書き初め展のご案内

☆日	時	2月10日(火)	17:00~21:00
		11日(水)	9:00~21:00
		12日(木)	9:00~14:00
☆会	場	針ヶ谷コミュニティーセンター 3階展示ギャラリー	



キラキラ輝くクラス

ふじみ野小学校教諭 中村 潤



晴れやかな表情と心に響く歌声。私が担任している四年生の朝の光景である。子どもたちは、音楽会に向けて合唱、合奏の練習を真剣に取り組ん

でいる。その様子を見ていると心が震えてくる。目標に向け、仲間を支え合いながら取り組み姿には、目を見張る。合唱曲の曲名は「友だちだから」。子どもたちは、仲間を

思い、まさに合唱曲を体現するかの様に日々の学校生活を送っている。国語の授業で発表したときのことである。「○○くん

の考えに似ていて。」という発表がたくさん出た。仲間の意見に耳を傾け、それを生かしている証だ。子どもたちは、日々仲間の言葉から学んでいる。

の話し合いは、活発だ。何があっても話し合いで解決しようと子どもたちは考え実行している。そんなクラスだからこそ、音楽会でもきつとすばらしい歌と演奏にしてくれるにちがいないと私は思っている。一つ一つの行事や出来事を通して、子どもたちは着実に成長している。そして、担任として私も日々刺激を受け、子どもたちと共に一歩ずつ更なる高みを目指していきたい。

編集日記

「本物の学力を育てる」という演題で上智大学奈須正裕先生のお話を伺ったことがある。「本物」とは何か。「本物」に触れる価値の大切さを考える。

江戸時代の国文学者であり医師でもある本居宣長は、桜をこよなく愛していたことは多数の作品からも分かる。「桜の本当の美しさは山桜にあり」と私たちが美しいと思う染井吉野ではないらしい。確かに染井吉野は、日本の歴史からすれば新しい時代の美観であろう。山桜は、若葉と花が同時に開き、やや赤みがかかってその色合いも美しく、日本人と桜のかかわりは深い。緑の木々の中にあつて一際際立ってピンク色に咲き、まさに山桜その物に美しさがあると小林秀雄も宣長の著作で述べている。

本物に触れる体験は、心に刻まれるものである。優れた芸術品が世界を巡回しているが、写真や画像で見るとは別である。私自身もゴッホの「ひまわり」を観たときの衝撃と感動は忘れられない。

今後、平成二十三年に入学した子の65%が現在存在しない職業に就くだろうとのこと。奈須先生は、変化の激しい社会での使える知識とは、学校で学んだ(インフォーマル)知識と経験が日常的(フォーマル)な知識獲得の足場となり、学びの一体化が求められているという。教科の学びの「活用」を深め、最終的に生き方に関わる学びとなること、本物の学力となる。「教師が変わり、授業が変わると子どもが変わる。」(忽滑谷)